

平成29年度 聖ヶ丘教育福祉専門学校教員研修会報告

聖ヶ丘教育福祉専門学校教員研修委員会

1 職場内研修会の開催

(1) 学園におけるコンプライアンスに関する校内研修会

- ① 期 日 平成29年9月25日(月)
- ② テーマ コンプライアンスとは(実務研修)
- ③ 対象 全教職員及び附属園の管理職等
- ④ 講師 学園顧問弁護士 高岡 香 氏
- ⑤ 連携内容 先ずはコンプライアンスの基本的な研修となる。

法令遵守と訳されるがここで言う法令は、憲法・法律・政令・省令・条例など国や地方自治体が制定したものに限らず、業界のルールや法人の就業規則、倫理規定等を含めた広い意味である。

主に学校法人の場合、コンプライアンスを構築し、運用していくことは法人の存続にとって不可欠であること。教職員は、公務員と同様の倫理観が求められる人格者であること。また、コンプライアンスという言葉は組織の方からの言葉であって、教職員の立場からすると職業倫理ということができるところを研修する。

(2) 学生指導に関する校内研修会

- ① 期 日 平成30年1月15日(月)
- ② テーマ 学生相談体制の充実に向けて～最近の学生の傾向と現状を踏まえて～(指導力向上研修)
- ③ 対象 全教員
- ④ 講師 本校介護科講師 稲富 正治 先生
- ⑤ 連携内容 本校の学生は、青年期とは思春期を通過している段階であるが、人生の中でもっとも揺れる時期が思春期であり、青年期とはアイデンティティの確立の時期と言え、同時に社会的な役割を形成する時期でもある。しかし、青年期にある青年でも、現代では思春期的な課題を引きずっている人が多い。自分の生きる方向性も見いだせず、まだ迷い続けている状態。アイデンティティの見直し、形成の援助のためには、経験を重ねることであったり、自分の体験、特に葛藤体験を言語化させることが必要になってくる彼らと向き合う時間や余裕が必要だと研修した。

(3) 保健衛生校内研修会

第1回

- ① 期 日 平成29年10月～11月の3日間
- ② テーマ AED操作研修会(実務研修)
- ③ 対象 全教職員
- ④ 講師 保健管理委員会委員長 遠藤由美子先生
- ⑤ 連携内容 AEDの設置に伴い、毎年全教職員に対して操作研修を行い、もしもの対応に備えている。本校教員の遠藤由美子が、資格を有しているために毎年の実施が可能になっている。

第2回

- ① 期 日 平成29年5月18日（木）
- ② テー マ 性感染症について～AIDS/HIV、梅毒を中心に～（実務研修）
- ③ 対 象 学生・教職員
- ④ 講 師 船員保険健康管理センター長 庄田昌隆 先生
- ⑤ 連携内容 学生は、自分の生活の中での基礎知識として、教職員は、学生対応の参考として役に立った。内容としては、①HIV感染症・AIDS・梅毒はどんな病気なのか。②その病気の予防の基礎知識について話があった。コンドームを配布しての話には説得力があった。

第3回

- ① 期 日 平成29年12月25日（月）
- ② テー マ 職場のメンタルヘルスについて（実務研修）
- ③ 対 象 全教職員
- ④ 講 師 船員保険健康管理センター長 庄田昌隆 先生
- ⑤ 連携内容 ストレスチェックをH28年度から導入し、その結果を教職員も持っている。しかし、その対応が進んでいないのが現状である。そこで校医の庄田先生に「職場のメンタルヘルス」をその1（ストレスが及ぼす社会的影響、ストレスとは何か）その2（うつ病、うつ病へどう対処するか、人付き合いが楽になるヒント）に分けて話があった。

2 職場外研修会への参加（指導力向上研修）

（1） 全国音楽大学教育学会 関東地区学会

- ①期 日 平成29年6月10日（土） ヤマハ株式会社（東京高輪）
- ②テ ー マ 「子どもの育ちと・音」 聖心女子大学教授 今川恭子
- ③対 象 音楽系教員
- ④連携内容 総合的な内容からは、子ども「胎児」の時期からの音や声に対する反応や、乳児期から幼児期に、子ども達はどのように音・音楽と関わっているか、といった講演であったが、児童・幼稚園・保育園で児童への具体的活用例がとぼしく、あまり参考にならなかったが興味深い内容も盛り込まれており全体としては良い研修となった。

（2） 子育て協会

- ① 期 日 平成29年7月23日（日） ワークピア横浜
- ② テー マ 「子どもの心を育てる」 クリニック・かとう 加藤醇子
- ③ 対 象 保育内容系教員
- ④ 連携内容 読み書きのLD、ディスレクシアの特徴、定義、事例、読みの行動特徴、対策などの研修。また、子どもにとっての家族の現状、問題、子育ての不安や悩み、その影響、父親の存在、子どもの発達に必要なものなど、教えていただく。その他、広汎性発達障がいの特徴、理解、対応などを研修した。

（3） 第2回オキシトシン研究フォーラム

- ① 期 日 平成29年7月23日（日） 東京ウイメンズプラザ
- ② テー マ 「自閉症児へのタッチケアとオキシトシン」
- ③ 対 象 食生態学・栄養学系教員
- ④ 連携内容 研究会で着目されたのは、自閉症児へのタッチケアとオキシトシンである。自閉症

スペクトラム障害（自閉症、発達障害、アスペルガー症候群など）は、治療が長期にわたる事の多い疾患であり、鎮静をかけることでイライラやかんしゃくを抑える目的で用いられる抗精神病薬を内服させる方法があることをメインに様々な研修となった。

（４） 関東甲信越ブロック教員研修会

- ① 期 日 平成29年9月30日（土） オークラフロンティアHつくば
- ② テー マ 「望まれる日本の高齢福祉と新たな介護の在り方」デンマーク在外の千葉忠夫氏ほか
- ③ 対 象 介護系教員
- ④ 連携内容 福祉国家に関する考え方やその道のりについての講演となったが、特に今回はバンクミケルセンの考え（ノーマライゼーション）について、日本の国に取り入れるには、どのような方法があるのか、デンマークが行った政策などをもとに考えた。福祉国家と日本は呼べるのか？そもそも日本にこの考えを取り入れなければならぬのかとの疑問から抜け出せずにいた。考えさせられる研修となった。

（５） 第25回日本介護福祉学会

- ① 期 日 平成29年10月1日（日） 岩手県立大学
- ② テー マ 「介護職の労働概念と社会的・経済的評価—生命再生産労働の概念を中心に—」
- ③ 対 象 介護科教員
- ④ 連携内容 現在の職業としての介護は、「生命再生産労働」としての「労働 labor」の域にとどまらず、利用者のADL（日常生活動作）やQOL（生活の質）における状態像の変化をもたらし、職場内で人材を育成して組織を形成し、制度やシステムとの結びつきを生み出すといった「仕事 WORK」の領域にまで広がっており、さらにはコミュニケーション行為であるところの介護は、利用者の人生の物語に関与し、事業所や地域社会の歴史を作ることにつながる「活動 ACTION」をも形成しているといえるであろう。日頃担当している授業に即活用できる情報を多数得ることが出来た。

（６） 第65回日本社会福祉学会秋季大会

- ① 期 日 平成29年10月21日（土） 首都大学東京
- ② テー マ 「社会の暴力性を問う—「包摂型社会」への提言—」岡部 卓氏（首都大学東京）
- ③ 対 象 社会福祉系教員
- ④ 連携内容 社会福祉学は、暴力に関わる個々の社会現象に対し、制度・政策やソーシャル実践などの規定を借定し対処してきている。つまり、そのような活動の中で暴力と想定される社会的事象に関わってきたのであって、社会福祉学として暴力について理論的に言及してきたわけではない。そこで、この大会において、政策、方法、活動、理論の観点から報告がなされた。そして、多様なかつ生きにくさを抱えている人々が、互いに尊重し、認め合える包摂型社会福祉社会の実現に向けたシンポジウムであった。

（７） 造形教育士認定初級講座

- ① 期 日 平成29年9月28日（木） アトリエ創造の泉
- ② テー マ 「造形教育の本質に迫る、感性とは何か、造形教育とは何か」
- ③ 対 象 保育内容教員
- ④ 連携内容 幼児造形指導教諭とは、0歳児からの造形遊びの面白さを、子どもの発達に合わ

せて学ぶ。また、素材を基にした造形遊びを発達段階や時期に合わせて、立体や平面の活動を取り入れたカリキュラム作りを行いながら指導方法を考えた。つくって遊ぶ楽しさを知る体験を行う。造形の本質である付ける、切る、貼る、編む、並べる、積む等の活動を通して、造形教育活動の楽しさを研修する。

(8) 平成29年度 武蔵野大学教育学部児童教育学科 表現発表

- ① 期 日 平成30年1月27日(土) 武蔵野大学雪頂講堂
- ② テー マ 「表現」領域にかかわる科目及びゼミ活動の成果
- ③ 対 象 図画・造形教員
- ④ 連携内容 各学年で手法は異なるものの、どの発表においても「表現」領域科目の主たるねらいとして「表現技術」および「企画運営能力」の獲得・活用を掲げていることが伺える。「表現」領域の学習では、学年を横断して段階的に諸能力を獲得してゆく体系的学習のプロセスが構築されていることが伺えた。本学に於ける「図画工作」及び「表現」の授業運営に於いても教員間の綿密な打ち合せ、また個々の授業実践の内容・工夫によって可能になるものとみられ、参考になる研修となった。

(9) 児童精神科医の渡辺久子先生主催の研修

- ① 期 日 平成30年3月3(土)・4日(日) 明治安田こころの健康財団
- ② テー マ 「子どもが子どもを生きること」多様化時代の愛着とトラウマへのとりくみ
- ③ 対 象 心理学系教員
- ④ 連携内容 一貫して子どもの育ちに関する議論でしたが、「子どもの愛着障害」、「被災地支援」、「離婚後の面会交流を巡る問題」が中心であった。「子どもは0.01秒を生きている」「信頼を得るためにすぐに動」など、印象的な言葉が多く、特に、東日本大震災での支援のきっかけが、震災直後の研修で声を挙げた郡山の被災者の訴えに応じたものだったこと。フィンランドの「未来語り」に学ぶ、今注目されているフィンランドの子育て支援の仕組みについての報告。
「ネウボラ」と「オープン・ダイアログ」に関する話題が中心であった。また、子どもの安心・安全を守る—離婚紛争中及び離婚後の面会交流—離婚後の面会交流に関して、子どもの意見が尊重されず、DVや虐待によって傷ついた子ども・配偶者が「原則的実施政策」「友好的な親ルール」など、司法の判断によって二次的な被害に遭い、面会交流殺人までが起きているという衝撃的な現状について報告があり、貴重な研修であった。

以下、その他の参加研修会名称のみ記す。

- 神奈川県労働局研修会(実務)
- 子育て協会(指導力)
- 全国保育士養成協議会(指導力)
- 造形教育研究大会(指導力)
- 保育教諭養成課程研究会(指導力)
- 日本介後福祉学会(実務)
- 全国教職員研修会(実務・指導力)
- 介護教員継続研修会(指導力)